

名古屋鉄道の赤字路線

国際政治経済学部 3年 山田陸登

名古屋鉄道(以下、名鉄)は愛知・岐阜県に線路を持ち、日本の私鉄の中では3位の444.2kmの路線長を有する大手私鉄である。最大のターミナル駅名鉄名古屋駅の複雑さ、種別変更や特別停車を繰り返す、など様々な特異な要素がつまっていることから「迷鉄」と呼ばれることもある。そんな名古屋鉄道だが、20年ほど前までは岐阜駅より北や三河地方に多くの路線を持っていた。しかし、いずれも乗客の減少を受けて廃止されていった歴史がある。ここ最近では廃止したいはされていないものの、廃止の危機にある路線が存在している。今回は廃止が危ぶまれている2路線を紹介する。加えて、今後期待される路線も合わせて紹介する。

広見線(新可児～御嵩)

概要

広見線は愛知県犬山市の犬山駅から岐阜県御嵩町の御嵩駅を結ぶ22.3kmの路線である。この中でも犬山駅から岐阜県可児市の新可児駅までは複線を有し、名古屋駅を経由する中部国際空港行き列車が1時間2本、新可児駅から犬山駅の区間列車が1時間2本走っている。しかし、新可児駅から御嵩駅は系統分離されており、単線で、新可児駅から御嵩駅の区間列車が1時間2本のみワンマン運転で走っているローカル線である。かつては明智駅のみ列車の行き違いが可能であったが、2023年に明智駅の交換設備が廃止された。そのため、新可児駅以外は1面1線のホームを有するのみになり、新可児～御嵩間には1列車しか進入できなくなった。また、途中の明智駅から八百津線が伸びていたが、2001年10月に廃止されてしまった。現在でも明智駅から線路が敷いてあった土地を確認することができる。加えて、新可児から明智間には学校前駅があったが、晩年は一部の普通列車す



(名鉄6000系の車内)

ら通過するほどになってしまい2005年1月に廃止された。実は新可児～御嵩の路線自体も、2007年に名鉄がこの区間を廃止する可能性を示している。その後2010年からは沿線の可児市、御嵩町、八百津町の3自治体で赤字を補填することが決まった(現在は八百津町は赤字補填から撤退している)。現在はこの自治体の支援を受けながらなんとか存続しているのが実情である。新可児～御嵩間は平成31年の時点で1日あたりの乗降客数は1904人、赤字は約1億9790万円、営業係数(100円収入を得るのにかった費用)は365となっている。

広見線に乗車



(名鉄 6000 系)



(車内に設置されている運賃箱)

使用されている車両は基本的にはワンマン対応している 2 両の名鉄 6000 系である。新可児駅を除いて無人駅で自動改札が設置されておらず、かわりに車内には運賃箱が設置されている。きっぷで乗車する場合は、全ての駅に設置されている券売機できっぷを購入できる。ちなみに、名古屋市営地下鉄への連絡切符も買うことができる。犬山方面から来て、新可児駅で御嵩行きの列車に乗り換える場合、一度中間改札を通る必要がある。この区間は IC カードが使えないため、新可児駅から乗る場合は、カードで出場処理する際に係員に降りる駅を申告し、乗車区間の運賃を減算する。新可児駅以外の御嵩までの駅から IC カードを使って乗る場合は、駅に設置してある券売機で乗車駅証明書を発行して新可児駅で精算する。

私は 2023 年 8 月 6 日の朝方に広見線を訪問したが、御嵩方面の列車は私含めて 2 人しか乗客がいなかった。だが、反対の新可児方面は高校生など 10 人ほどが乗車してきた。この時は夏休みだったが、学校がある時期のラッシュ時には多くの学生が利用していることが予想される。終点の御嵩駅には御嵩町の観光案内所が設置されており、パンフレットが設置してあったり地域の特産品を買うことができる。また、電動アシスト自転車をレンタルすることができ、町内の観光に利用することができる。



(新可児駅の中間改札)



(御嵩駅駅舎)

自治体の支援

沿線自治体の御嵩町、可児市、八百津町が共同して名鉄広見線活性化協議会を組織して名鉄に財政援助しながら、利用促進事業を展開している。

まず、路線があるエリアに観光客に来てもらうための戦略として、戦国3武将ゆかりの地をめぐるマップを作成している。広見線沿線地域にゆかりのある、森蘭丸、明智光秀、可児才蔵それぞれのゆかりの地をめぐるモデルコースを紹介している。特に、明智光秀は2020年にNHK大河ドラマ「麒麟が来る」が放送され、大きな話題を呼んだ。これを絶好の機会として観光客誘致を積極的に行なっている。



(定期券・回数券購入補助のポスター)



(戦国3武将ゆかりの地めぐりマップ 注1)

また、地域住民の広見線乗車促進を図り、定期券や回数券の購入した場合、商品券が交付されたり、購入金額が補助される取り組みが行われている。例えば、通勤・通学定期券を購入した場合、6ヶ月定期では2000円分の商品券が交付される。また、運転免許を自主返納した利用者は、回数券の購入金額が全額補助される。他にも団体利用する際や、イベントを開催する際の補助金が交付される。

このように、沿線自治体がお金を出しながら地域住民の足を無くさない取り組みが行われている。

蒲郡線(蒲郡～吉良吉田)

概要

蒲郡線は愛知県蒲郡市の蒲郡駅から愛知県西尾市の吉良吉田駅を結ぶ17.6kmの路線である。全線単線で途中駅が8駅あるうち、交換可能駅が5駅あり、日中でも途中駅で列車の交換(行き違い)が行われる。基本的には蒲郡から吉良吉田までの普通列車が1時間に2本走っている。吉良吉田で完全に系統分離されており、名古屋方面へ向かう列車は存在しない。以前は蒲郡を中心とした三河地区は海水浴やテーマパークなどの観光施設が豊富で、多くの人が訪れていた。名鉄としても旅客輸送に力を入れ、1960年ごろには名古屋からの直通特急「三河湾号」が毎時2本設定されていた。名鉄の主力かつ最新型の高性能特急車両が使用され、パノラマカーやパノラマデラックスといった人気特急車両も入線していた。しかし、全国にさまざまなレジャー施設ができ、それらとの競合により三河地区の衰退が顕著になってきた。徐々に特急の規模を縮小し、2005年1月を最後に完全に特急は廃止されてしまった。観光需要が減ったこと以外にも、JR東海道線に対して不利であることも、蒲郡線の衰退の理由に挙



(名鉄蒲郡駅改札口)

げられる。現在、名古屋駅から蒲郡駅に行こうとすると、JRが乗り換えなしで40分990円、名鉄が乗り換え2回で1時間45分1290円と大きく差がついている。今現在、蒲郡線は地域輸送にシフトしているが、赤字が続いている。1997年に当時の名鉄社長が会見で、その後廃止された谷汲線や八百津線と同時に廃止検討路線の候補として蒲郡線が挙げ得られた。沿線自治体の西尾市と蒲郡市の支援を受けながらなんとか存続している状態が続いている。2市が毎年約2億5000万円支払うことで財政支援をしており、現時点で2025年度まで蒲郡線の運行を

継続することが決められた。平成29年度の1日あたりの乗降客数は4380人、赤字は(西尾から吉良吉田も含めて)約7億4311万円、営業係数は296.5となっている。

蒲郡線に乗車

使用されている車両は広見線と同じく、ワンマン対応の6000系2両である。起終点の吉良吉田駅と蒲郡駅以外は全て無人駅で、運賃の精算の仕方は上記の広見線と同様だ。

蒲郡線は沿線の学校が多く、私が乗車した際は学生が多く見られた。また、それ以外の一般利用者も多く乗っており、広見線と比べて乗客の数が圧倒的に多かった。車窓からは三河湾を望むことができる。さらに沿線には今でも行ける観光地が多く存在し、温泉、漁港や親子で行ける愛知こどもの国がある。今は昔と比べて残念ながら衰退してしまっただが、楽しめる場所がたくさんあるため行ってみる価値は大いにあると思う。その際はぜひ蒲郡線を使いましょう。



(名鉄 6000 系にしがま号)



(吉良吉田駅旧三河線ホームに停車する 6000 系)

自治体の支援

前述のように蒲郡線の沿線自治体である西尾市と蒲郡市が財政援助を行なっているが、この他にも活性化協議会結成して、蒲郡線を利用してもらおうとする取り組みが行われている。

豊富な観光地を生かして沿線マップを作成し、配布中。また、東幡豆、西幡豆、西浦、形原の各駅では、電話一本で自転車を無料でレンタルできるサービスを行っている。各駅にはその地域に特化したガイドマップを設置し、マップ掲載店にはのぼりやパネルをわかりやすく設置して街を巡りやすくしている。

加えて、乗車の際の補助金も行っている。西尾市内の学校や町内会などが 10 人以上で蒲郡線を利用する場合、その運賃を全額補助する。また、市内在住の小学生以下の子供と保護者が蒲郡線に乗車した場合、こちらも全額補助される。



(西尾から蒲郡の沿線マップ 注3)



(マップ掲載店ののぼり 注2)

この他にも、更なる観光推進として、かつて名鉄で走っていた車両の塗装を再現した車両を走らせている。現在、上記写真の名鉄 6000 系にしがま号が、1980 年ごろに有料特急であることを示していた白帯をつけて走っている。また 2023 年 9 月から、かつて蒲郡線を走っていた 5500 系の塗装を再現した新たなラッピング列車が走っている。これらの車両の出発式には多くの人が集まり、盛り上がりを見せた。

今後期待される路線 三河線(知立～豊田市)

ここからは、逆に今後発展が期待される路線を紹介する。それが名鉄三河線の知立駅から豊田市駅の区間である。2015年に愛知県が、2027年のリニア中央新幹線開業を見据えて、世界的な企業であるトヨタ自動車が本社を置く豊田市までのアクセスを良くするための支援を公表した。現在、三河線は単線で普通列車のみの運行であるが、



(三河八橋駅の高架)

所要時間短縮のために複線に改良し特急を走らせることを目標としている。

現在、三河線では具体的な複線の工事は行われていない。しかし、新たに行われている高架化工事では、複線に対応した高架が作られている。まず、すでに工事が完了しているのが三河八橋駅付近だ。ここは愛知県が方針を示した時より前の平成22年に完成しているが、しっかりと複線にすることを前提として高架が建てられている。

そして現在工事が進行している駅が、まず知立駅から三河知立駅間付近だ。ここは名古屋本線と一体して進められ、2階が名古屋本線、3階が三河線の三層構造の巨大な駅となる予定である。現在は名古屋本線との直通列車は運行されていないが、名古屋から三河線に向かう場合、知立駅の手前で反対方向の線路と平面交差しなければならないため、これが障害になっている。高架化が完成すれば、平面交差が解消されスムーズな運行を行うことができる。しかし、工事が当初の予定よりかなり遅れており、完成が2027年にずれ込む予定だ。



(高架化工事中の知立駅)

さらに、若林駅付近の高架化も進められている。ここも複線対応の高架化が作られる予定だ。今現在は仮線に切り替えられた段階で、完成は予定通りに行くと2027年以内である。

三河線が複線化されれば、豊田市とのアクセスが良化しさらなる発展につながる。予定通り完成してほしいと思う。

参考文献

- <https://www.town.mitake.lg.jp/wp-content/uploads/keikaku31-33-1.pdf>
名鉄広見線活性化協議会「名鉄広見線活性化計画」
- <https://www.town.mitake.lg.jp/portal/life-process/land-park-road-traffic/traffic/post0014046/>
御嵩町「名鉄広見線活性化協議会について」
- https://www.city.nishio.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/002/035/20181119-162526.pdf 西尾市「西尾・蒲郡線の概況」
- <https://www.city.nishio.aichi.jp/kurashi/kotsu/1001409/1002034.html>
西尾市「名鉄西尾・蒲郡線利用促進補助制度」
- <https://www.higashiaichi.co.jp/news/detail/6118>
東愛知新聞「名鉄西尾・蒲郡線運行継続へ」
- <https://www.nikkei.com/article/DGXLZO83622610U5A220C1L91000/>
日経新聞「名古屋―豊田 40 分視野 愛知県、名鉄三河線で公費投入検討」
- <https://www.city.chiryu.aichi.jp/shisei/machi/7/1451813596032.html>
知立市「知立駅付近連続立体交差事業の概要」
- 名古屋鉄道 今昔 徳田耕一著

注 1 は https://www.town.mitake.lg.jp/wp-content/uploads/sengokumap_japanese.pdf より引用

注 2 は <https://www.city.gamagori.lg.jp/site/meitetsunisiogamagori/ensenrentasaiko-.html> より引用

注 3 は <https://www.city.gamagori.lg.jp/uploaded/attachment/76039.pdf> より引用